

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	53	学校名	坂下高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域と連携した教育を実践する地域に根差した高校として「地域と共に、地域と育つ」のもと、協働的で探究的な学びを通して他者と協力しながら地域で活躍できる人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	(地域に根ざした坂下高校)～地域と共に、地域と育つ～ 社会の進展や変化に主体的に対応し、生涯にわたって心豊かで創造的な人生を営む態度や能力を身に付け、医療、福祉、生活文化をはじめとする幅広い分野で、地域社会に貢献できる生徒を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の課題に主体的に対応し、他者と協力しながら課題解決に取り組む生徒 ・夢と希望を持ち、前向きに人生に向き合い、他者への思いやりを忘れない生徒 ・地域社会の様々な分野で、自己の役割を自覚し、社会に貢献する生徒 	
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を通じた基礎学力の定着とコミュニケーション能力の育成 ・教科の学習目標に向け、ICTはじめ学習方法の工夫と研究を通じた主体的・対話的な学びの育成 ・地域と連携した多様な学習活動を通して、ローカルな学びをグローバルな学びへと展開できる課題解決力・深い学びの育成 	
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの意思で学ぼうとし、目的意識を持って学校生活に取り組む生徒 ・新しいことにチャレンジし、粘り強く最後まで真面目に取り組む生徒 ・地域を愛し、将来の地域社会のために役に立ちたいと考えている生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉科の入学希望者が大きく減少している。 ・幅広い学力層の生徒が在籍する中で、基礎学力の定着につながらない生徒が多い。 ・自己の可能性や将来への幅広い選択肢に気づけず、学科での学びを卒業後の進路につなげることができない生徒が多い。 ・人との関わり方が苦手で、良好な人間関係づくりに悩む生徒が多い。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが尊重され、生徒の自己肯定感を高める教育活動を地域とともに行うことで、将来地域で活躍できる人材を輩出する。 ・福祉科の生徒募集につながる地域を巻き込んだ包括的な協働体制を構築する。 	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着と少人数によるきめ細かい指導で基礎学力を育成する。 ・地域連携と探究活動を通し、課題に対して主体的に解決できる能力を養う。 	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の状況に応じた学力の育成及び進路実現のための支援を行う。 ・進路研究を通して、情報を主体的に収集し、目標の実現のために自ら行動できる姿勢を育てる。 	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による教育相談体制を確立し、不適切な行動の未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ・家庭・地域・SC等関係機関と密に連絡を取り、適切な生徒支援を積極的に進める。 	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学校経営	・地域の自治体や企業、大学との連携。ボランティア活動など地域行事への参画	施策Ⅱ-13	・学校運営協議会における意見及び助言	<ul style="list-style-type: none"> ・総合探究をはじめ授業において、行政、企業、大学との連携を積極的に展開した。 ・全校集会を始めとした学校行事において生徒が運営を行った。 ・出前講座や体験入学など中学校への広報活動を積極的にに行った。特に体験入学で福祉講座を受講した中学校に、福祉科の学びや卒業後の進路についての説明を実施した。 	B	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・総合探究の企業カレンダー制作は、地元の産業を知るきっかけとなった。 ・総合探究のゼミ活動の中には、テーマを深掘りできたゼミも多く見られた。 ・アンケート結果より、7割近くの生徒が自己肯定感と自己有用感が高まったと回答した。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や地域に福祉科の学びや役割の理解を得られているが、募集につながらない。 	B
	・生徒による行事の企画や運営への参画推進	施策Ⅱ-8	・生徒のボランティア活動などの参加状況				
	・出前講座、高校説明会、体験入学等による広報活動	施策Ⅳ-20	・学校評価のアンケートの結果				
			・出前講座でのアンケート結果				
学習指導	・学年会と連携した朝学習や、特別支援教育支援員による個別支援を通じた基礎学力の定着	施策Ⅳ-23	・学校運営協議会における意見及び助言	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習では一般常識ドリルなどの基礎学力の向上の活動を行った。日々の授業にも落ち着いて取り組んでおり、1,2年生の約3割が10月の基礎力診断テストで向上が見られた。 ・全ての教員が授業を公開し、8名の教員が研究授業を実施した。 ・今年も多く地域連携活動を実施した。 	B	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果より授業への満足度が高く、落ち着いた環境で授業が実施された。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携活動が定着してきた。 ・朝学習の効果的な方法の研究と実践をする。 ・ICTを活用した授業の研究を行う。 ・地域連携活動の精選を行う。 	B
	・授業公開や教員研修を通じた教員の授業力向上	施策Ⅳ-26	・基礎学力診断テストの結果				
	・生徒が主体的に課題を解決できる地域連携や探究活動の精選と実践	施策Ⅰ-4	・保護者による学校評価アンケートの結果				
進路指導	・生徒・保護者への進路情報の提供、主体的な進路実現への支援	施策Ⅱ-13	・学校運営協議会における意見及び助言	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進学・就職の選択肢を増やすために、進路ガイダンスを実施した。 ・基礎学力の定着を図るためにスタディサプリを実施した。 ・デュアルシステムが3年目を迎え、生徒の職業観、勤労観を育てることができた。 	B	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果より進路情報への満足度が高く、LHRでの進路研究や進路通信を定期的に発行した成果が見られた。 ・デュアルシステムを通して自己理解を深め、職業観を養うことができた。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・さらに進路意識を高めるために職員間の連携を大切に、進路資料の作成に努めたい。 	B
	・地元事業所と連携し多様な学習活動を通じたキャリア教育の推進	施策Ⅱ-13	・保護者による学校評価アンケートの結果				
	・進路学習の機会(進路ガイダンス、大学見学等)をもち、望ましい勤労観や職業観の育成	施策Ⅱ-13	・地元への就職率の結果				
生徒指導	・身だしなみ指導・あいさつ運動の継続により社会で通用するマナーの向上	施策Ⅰ-1	・学校運営協議会における意見及び助言	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の身だしなみ指導により、着こなしの当たり前を浸透させることができた。 ・月に1回のアンケートとほっとプレイスの活用により、教育相談を充実させることができた。 ・該当事案に対して保護者だけでなく、外部機関との連携も上手くできた。 	B	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・場面や季節に応じた着こなしを生徒自身が考えられるようになった。 ・アンケート結果より生徒安全やいじめへ指導への満足度が高く、重大ないじめは1件もなく、不登校の生徒数も少なかった。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの仕方を含め、社会人としてのマナーをさらに向上させる。 ・スクール相談員、教育支援員、教員間での情報共有をさらに細かく行う。 	B
	・教育相談の充実と教育相談体制の確立を通じた情報共有	施策Ⅰ-3	・保護者による学校評価アンケートの結果				
	・保護者との密な連携を通じた生徒支援	施策Ⅰ-7	・事案ごとに保護者や関係機関と連携した対応がとれたか。				

来年度に向けての改善方策等

- ・福祉科への入学希望の増加を目指し、各種機関との密な連携をとる中で、特に福祉科卒業後に、医療系分野の進学も含めた幅のある進路選択が可能な点を中学校に広報することで、募集の増加につなげていく。
- ・次年度を見据えたゼミ活動の展望及び、生徒への教育的効果や教員の負担感を踏まえた地域連携活動の見直しを積極的に行う。
- ・今年度は外部連携が必要な教育相談の事案が多く見られたため、全職員で生徒を支援できる体制づくりの検討を行い、学校生活に馴染めない生徒や、家庭の問題に対する支援体制の充実を図る。
- ・生徒の進路実現に求められる基礎学力の向上及び、総合型選抜等の試験対策(小論文、面接、プレゼンテーション)に向けた支援体制を構築する。

学校関係者評価

実施日：令和8年1月28日

- ・地域探究科、福祉科とも、「地域と共に、地域と育つ」をスローガンとした地域連携に基づく教育活動が積極的に行われており、生徒の主体性を育て、生徒の自己肯定感・自己有用感を高める大きな要因になっている。今後も地域の力を借りながら、地域に愛着をもち、卒業後に地域への定着につながる教育活動を進めてもらいたい。
- ・小規模校のメリットを生かした生徒への手厚い学習指導や生活支援が実施できており、一人一人の生徒に対して丁寧に寄り添う教育ができていたことが、アンケート結果などからも伺うことができた。
- ・学校が落ち着いている中、次の一手が進路実績である。今年は、久しぶりに国公立大学の合格者を輩出したり、四年制大学への進学者を増加できたが、一人の生徒に対して何人もの教員が進学支援に携われる強みを生かして就職や進学などの進路実績をもっと伸ばしてもらいたい。